

○議長（上田順康君） 順番14番、18番 妙中君。

〔18番（妙中嘉三君）登壇〕

○18番（妙中嘉三君） 議長のお許しを得たので演壇より質問いたします。

まず、合併後 6 カ月を経過した中での問題点について。①財政状況について、②スリム化はされたか、③住民負担について、④高野口支所の跡地計画について、⑤高野口小学校改築について。

大きく 2 番目、公営住宅の払い下げについて。

3、広域ごみ処理場建設に伴う橋本市の方向性について。

合併による新市が誕生して早 6 カ月がたちました。新市の議員として、私も在任特例をいただき、その責任を深く感じつつ、合併後の成り行きを見守っているところであります。しかし、新市民にとっては合併前の説明や思っていたこととあまりにも違うとのことで不満、不安が日々高まっております。

まず、新市における財政状況であります。合併する大きな理由の一つとして、財政の健全化が挙げられていましたが、実際ふたをあけてみると、健全化どころかびっくりするような厳しい財政状況だと聞いています。そして、このまま推移すると、三、四年先には民間でいう倒産、自治体でいえば北海道の夕張市のような財政再建団体に陥るおそれがあるとのことですが、これは本当でしょうか。もちろん、なぜそうなってきたかを検証されていると思いますが、その原因、責任をお聞きしたいと思います。旧高野口町における合併直前の駆け込み事業なども一因しているかもしれませんが、それ以外もっと大きな理由、

原因があるように思います。これをわかりやすく説明してください。

次に、合併の目的は、市町が統合することによって合理的、効率的な行政運営、つまりスリム化をめざし、それで浮いたお金を行政サービスや福祉の向上に回す予定だったはずです。しかし、現実にはスリム化どころが組織は以前より複雑化し、目的とは逆行しているように思います。なお、合併後の財政状況については、先日私は担当部局に聞き取りした調査の結果、次のような驚くべきことがわかりました。

関係部局が作成した財政シミュレーションでは 3 段階を想定したものがあり、それを見ると、一番厳しく見たものでは平成19年度の累積赤字が約15億円、20年度には44億円、21年度には80億円、22年度には106億円とあり、次に中間的なもので平成19年度に13億円、20年度に39億円、21年度に55億円とあります。一番低く見たものでも、平成21年度に 5 億円、22年度に15億円と、まさにびっくりするような赤字が見込まれています。これではどう予測しても近い将来財政再建団体に転落するおそれがあります。一体当局はこの数値をどうとらえているのですか。あくまでも想定であり、先のことはそんなに心配することはないと安易に考えているとすれば、当事者としてあまりにも無責任だと思います。私は少なくともこのシミュレーションで一番現実性の高いと思われる中間的なものを予測しても、これが現実とならないように早急に対策を講じるべきだと思いますが、いかがですか。

もちろん、歳入はそう簡単に増やせるものではないということを考えれば、大なたを振るってもスリム化しなければ膨大な赤字をな

くせるはずがありません。このような具体的な数値が出た以上、今述べた対策、例えばこれでいくら減らしていくとか具体案があればお示してください。

次に、合併後の住民負担の一つとして、介護保険料が大幅に上がってきており、合併すれば住民負担は低いほうに合わせると言っていたのに、これでは逆ではないかと市民からの苦情がいくつも私のところに寄せられています。これらは合併によるものかどうかは、その理由を市民にもわかるように説明してください。

次に、高野口町役場跡地の利用計画について、既に総合的な公民館ということで設計もでき上がっていると聞いていますが、その概要をお示してください。この建設には、かなりの費用も要すると聞いております。私が心配するのは、そのような費用をかけながら、しかも大きな維持費のかかる建物を今それを市民が本当に望んでおり、その内容が将来の市民生活や周辺の発展に役立つものかどうかということでもあります。このことを十分検討された上で設計されているのか。また、その経緯をお聞きしたいと思います。

次に、高野口小学校の改築問題であります。旧高野口町で設計されたものを吟味したところ、いくつかの無駄や不都合があって再設計するということではありますが、その内容について市民に何の説明もなく、何も知らない市民は大変不安に思っております。聞くところによれば、改築はかなり遅れるそうですが、以前の設計等の問題だけを理由に遅れているとなれば、それは問題のすり替えであり、わざと遅らせているとしか思われません。設計が変更された以上、今後市民への対応、改築の日程的なものも含め説明してください。

次に、公営住宅の払い下げについてお尋ねします。一部のものを除き、そのほとんどは

大変老朽化しています。そのため補修費に多額の費用がかかっており、建て替えするにも建築費のほか、あとの家賃問題など、この財政状況の中ではとてもできるものではないように思います。また、今日の社会情勢では、公営住宅の時代は既に終わっているのではないかと思います。利用者の多くは払い下げを望んでいるとも聞いています。払い下げをするにはいくつかの課題もあると聞いております。今日の財政状況を考えれば、思い切って払い下げをしたほうがいいと思いますが、いかがですか。今後のお考えをお聞かせください。

次に、広域ごみ処理場建設について、当初から見ると市民からの要望、いくつかの改善も見られ、既に市民大方のコンセンサスを得られているように思いますが、なお、ごみのさらなる減量、生ごみの堆肥化促進など、多くの課題もあります。これらごみ量の大半を占める橋本市としての考え、今後の具体的な取り組みをお聞かせください。

以上、壇上よりの質問を終わります。

○議長（上田順康君）18番、妙中君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）妙中議員のご質問にお答えをいたします。

ごみ対策につきましては、ごみの可能な限りの発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）という3Rと適正処分による天然資源の消費を抑制し、環境に配慮した循環型社会のまちづくりをめざしております。

可燃ごみの約60%以上を占める生ごみの減量につきましては、各区、自治会長が中心として活動を推進していただいております橋本市衛生自治会のご協力等により、生ごみ堆肥

化グループの拡大や電気式生ごみ処理機、コンポスト容器購入補助事業を今後も継続して実施するとともに、より一層の生ごみの減量化、資源化を推進してまいります。また、その堆肥を活用した花と緑のリサイクル事業の普及をさらに図ってまいりたいと考えております。

また、廃棄物減量等推進員制度を通じて、生ごみの水切り排出の推進、可燃ごみに含まれる紙類の資源化への推進、環境学の学習会、ごみステーションの美化運動等、市民との連携によるごみの意識啓発活動を推進し、より一層ごみの減量に努めてまいりたいと考えますので、今後ともよろしくご理解のほどをお願い申し上げます。

なお、残余の件につきましては担当参与から答弁をいたします。

○議長（上田順康君） 教育長。

〔教育長（森本國昭君）登壇〕

○教育長（森本國昭君） 次に、高野口出張所の跡地計画についてでございますが、合併協議会で高野口出張所及び北側の母子健康センターを合併後1年を目途に廃止することになっており、跡地については、旧高野口町役場にかわる高野口地区の市民の拠点としての高野口地区公民館と福祉機能を兼ね備えた複合施設の建設を予定しております。

現在の複合施設の建設に向けての進捗状況ですが、5月から企画部、総務部、健康福祉部など、公民館を含めた各関係の部長、課長と会議を開催いたしまして、複合施設の室数、間取り、面積等や必要性、機能性について協議しております。

平成18年6月22日に設計の入札を実施して、設計業者も決まっておりますので、協議の結果を十分に踏まえ、設計事務所と鋭意協議を行い、現在設計中でございます。

いずれにいたしましても、市民の方にご利

用いただきやすい複合施設の建設をしていきたいと思っております。

次に、高野口小学校改築についてお答えいたします。

まず、1点目の設計が変更された理由でございますが、6月議会でも答弁させていただきましたが、新市となり政策調整会議で高野口小学校改修について審議され、木造の校舎を生かしての改修については否定するものではございませんが、各学年に設けられているオープンスペース、ランチルーム、またプールを2階にし、1階に屋内運動場使用者を含めて使用するシャワールーム、地域ふれあいコーナー等々、他の学校に比べてぜいたくな設計になっており、幼稚園についても少子化の中、校舎外に新築の計画がなされていますが、旧高野口町では保育所の統合が既に検討されており、幼保一元化施設の検討もすべきであるという意見が出されました。結論といたしまして、総事業費約19億円のうち、一般財源約15億円の負担が財政的に非常に厳しく、18年度は着工を見送り、設計内容を見直すということになりました。

次に、今後の市民への対応でございますが、6月16日に旧高野口町で組織されておりました高野口小学校建築委員会の委員さんに、また同6月の20日高野口小学校保護者の方々に、18年度着工の見送りの理由と設計内容を見直すということについて説明をさせていただきました。その席上でも申し上げましたが、設計内容の見直し案が出た時点で、同様の説明会を開催するよう計画をしております。

次に、改修の日程でございますが、19年度に着手できるように市当局や関係者とも十分協議してまいりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

○議長（上田順康君） 理事。

○理事（塚本 基君） 財政状況についてお答

えいたします。

新市における財政状況についてでございますが、議員おただしのとおり、平成18年度6月に新市の年間予算を編成したところ、財政状況は大変厳しいものとなっております。その要因といたしましては、6月に編成した予算は通常編成する当初予算と同様、歳入面については各項目とも予算計上額を抑えているほか、税収の伸び悩みや三位一体改革による補助金、交付税削減の影響もあります。一方、歳出面では旧市、旧町の継続事業や市民病院への繰出金、広域ごみ処理施設建設負担金及び周辺整備事業費などの支出増が要因と考えられるほか、合併による効果が初年度から反映されていないものも一つの要因であります。

また、合併の目的は行政運営の効率化と財政基盤の強化を図ることにより、地方自治体の責務となる公共サービスの提供を維持、充実していくことが主たる目的であると考えております。もともと財政状況の厳しい自治体同士が合併をいたしますので、合併してすぐに財政の健全化が図れるものではございませんし、また厳しい財政状況となった責任についても、両市町とも行政事情や財政事情の違う中でそれぞれ議会、住民の理解を得つつ行政運営を行ってきたものでございます。

なお、夕張市のように財政再建団体に陥らないのかとのご質問ですが、合併をして何の改革も講じなければ、平成22年度には標準財政規模の20%を超える累積赤字となり、起債発行の制限も受けることから、事実上財政再建団体と同様な措置を講じざるを得ない状況になると予想しております。

本市といたしましては、このような状況を踏まえ、現在新市行政改革大綱と改革の具体的な取り組みを示した集中改革プランの策定に取り組んでおり、改革の早期実現をめざし

努力いたしますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

次に、合併によるスリム化でございますが、まず職員については、昨年度から今年度にかけて退職者に対する職員採用を抑制し、1年間で病院を除き16名の職員を削減いたしました。しかしながら、依然類似団体と比較して職員数は過剰となっており、新市まちづくり計画での財政計画における職員削減計画を基本として、今年中に定員削減の目標と手法を盛り込んだ定員適正化計画を策定し、市民にわかりやすく公表するとともに、積極的、計画的な合理化等を進め、職員数の抑制に取り組んでまいりたいと考えます。

また、組織につきましても、合併に伴う業務量や業務内容の増、あるいは専門部署を設けるなどとしたため、部課の数が増加いたしました。将来の行政需要の変化により、柔軟に機構改革を実施し、組織のスリム化等に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、住民負担についてですが、合併に伴い少なからず市民の方々に負担をおかけしているものでございますが、その負担の内容については、旧橋本市と旧高野口町との間で十分な協議を重ね、最小限の負担となるよう調整を図ってきたところでありますので、ご理解をお願いいたします。負担が増加したものの中には制度の改正に伴うものもあり、例えば介護保険料についてはその負担を軽減するため、激変緩和の負担調整措置は講じられております。

以上でございます。

○議長（上田順康君） 建設部長。

○建設部長（坂本信良君） 次に、公営住宅の払い下げについてでございますが、市営住宅の建物の耐用年数は、公営住宅法により定められており、耐用年数の2分の1を経過した場合、建て替え、用途廃止を行うことができ

ます。新市の市営住宅ストック総合活用計画の策定を早急に行い、これに基づき用途廃止の団地においては計画的な払い下げを検討してまいりたいと思っております。

○議長（上田順康君）18番 妙中君。

○18番（妙中嘉三君）私の質問に対するご答弁は、新市になり当局が賢明に取り組んで一層の成果を挙げるべく努力されているということを確認いたしました。市長にあと二つだけご答弁いただきたい点がございます。

まず1点目は、住宅の払い下げなんですけれども、これは部長が検討中だということなんですけれども、本当を言えば、住宅の払い下げを望んでいる住民が大変多い。市長として住宅を払い下げる用意があるのかなのか。二つに一つの返事でしてください。

もう一つ、広域のごみ処理場建設について、以前、高野口行政は住民不在のまま進めた経過があり、また2カ所あるクリーンセンターの状況も考え、その環境保全委員会との約束もあり、今後においては建設に向けて十分なる説明を行いながら、稼働平成21年3月となっておりますけれども、市としてもっと早く前倒して建設するつもりはあるのか、ないのか。それを二つ応えてください。市長をお願いします。

○議長（上田順康君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）妙中議員の再質問にお答えを申し上げたいと思います。

まず、第1点の市営住宅の払い下げ問題ですが、築も相当古いのが市内各所の団地に見受けるわけでございますし、既に旧橋本市に置きましても払い下げしたところもございまして、なかなか一つの区域の中で全員のご同意をいただかないと払い下げができないというようないろいろの形が、仕組みがあるわけでございますし、難点はあろうと思

ますけれども、私といたしましてはできる限り払い下げをしてまいりたいと考えております。

それから、次はごみの問題でございますが、議会の皆さんのお力添えをいただき、用地は既に完全買収が終わっております。あと都市計画決定等、いろいろと事務的なことがあるわけでございますが、私がその管理者ということでございまして、非常に責任がございまして、できる限り早く完成をしてまいりたいと考えてございまして、20年12月末ぐらいをめどに、可能な限りそれぐらいに完成をし、そして試運転をして間違いなければ引き渡しを受けるということにまいりたいと思うんでございますけれども、これも関係住民の多くの方のご理解とご協力をいただかなければまいりませんし、もうタイムリミットというか、本当に時期が迫ってまいりました。したがって、明後日の14日にも高野口の産業文化会館で、恐らく最終的になるということで、各住民の皆さんに説明会を開催することになってございます。このことで、多くの皆さんのご了承をいただいて、そして建設に向かって遺憾のないように取り組んでまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（上田順康君）18番 妙中君。

○18番（妙中嘉三君）私が思っていた回答を得られたので、これで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（上田順康君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）恐れ入ります。今、妙中議員のご質問があったわけでございますけれども、少しお時間をちょうだいしてご説明させていただきます。といいますのは、今財政課のほうで財政健全化、最終の詰めをさせていただいております。今、試案で最終の大詰めをさせていただいておりますので、あ

る時期を見はかりまして、議会のほうへ詳細説明をさせていただきたい、近いうちにさせていただきたいというように考えておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

○18番（妙中嘉三君）ありがとうございました。

○議長（上田順康君）これをもって、18番 妙中君の一般質問は終わりました。

この際、午後3時5分まで休憩いたします。

（午後2時49分 休憩）